

知の連携

人気のない森の中で、英語で緊急通報をするCMを見たことがありますか。自転車運転者の転倒を付けていたデジタルウォッチが検知し、着用者に無事を確認したが応答がなかったため、AIの独自判断により緊急通報しているCMで、その通報の的確さに感心してしまいました。



凄いですね、転倒などの緊急事態を瞬時に検知し、ユーザーの安否確認のために腕をたたいたり、声をかけたりして反応がなかった場合は瞬時に緊急通報をする。その際に、位置情報やユーザーの現在の健康状況を正確に伝え、これまで実際に海で沖に流されたり、交通事故にあたりした人が救われているとのこと。

また、日本でも先日、固定電話に外付けした人工知能(AI)が、一人暮らしの高齢者宅に掛かってきた電話の詐欺を見破り、警察に自動音声通知し被害を未然に防いだとの報道もありました。会話中の「お金を貸して」や「鞆をなくした」などのキーワードや文脈からAIが詐欺と判断し通報したもので、2020年11月からサービスが開始されているそうです。

情報技術の革新により、人工知能(AI)が私たちの生活を豊かに支える時代となっています。しかし、AIは無垢(真っ白です)で、開発する者の色に染まってしまう特徴もあります。だからこそ、開発する者の「社会をよくしたい」という気概(きがい)が大切になります。

皆さんの「ものづくり」の学びは、単に知識・技術を身に付けるだけではなく、「社会や生活をより良くしたい」という思いに基づかなければなりません。荒川工業の全ての学びは、明るい社会につながっています。

ぶらり、あらこう散歩

【全日】家庭科の湯山先生が、荒川区の高齢者福祉課や認知症キャラバンメイトと連携した「認知症講座」を三年生対象に行いました。世界一の長寿国となった日本は、4人に一人が認知症を発症する可能性があり、家族だけでなく地域のサポートが重要になるとのことでした。今までできていたことができなくなる認知症のサポートは、相手の自尊心を傷つけないように支える側の配慮と、見守りの輪を広げることが大切ですね。



【定時】良い授業の共通点は、指導する先生が楽しそうです。その雰囲気生徒が自然と引き込まれ、思考や表現が活発化されます。定時制の保健で村橋先生が、ドラゴンクエスト風にアレンジした教材で、「災害時に生き延びろ！」を指導、数学の鈴木先生が、フィボナッチ数列を基に、自分たちで数列を考える指導。アクティブモードになった生徒たちの思考は、学びの深化につながっていました。引き出しの中の知識を出し入れさせる先生にあっぱれ！



学びは楽しいぞ！荒工生！

「未来を創る！彩る！荒川工業」